都区部インフレ率、総合で3%に迫る　8月速報値

#東京 #経済

2022/8/26 21:30 [有料会員限定]

インフレが加速している。総務省が26日発表した8月の消費者物価指数（CPI）東京都区部中旬速報値は総合指数が前年同月比2.9%上昇と、3%に迫る伸びとなった。消費増税の時期を除けばバブル経済の影響が残る1991年12月以来の高い伸びだった。資源高の影響で電気代やガス代のほか、食料品の価格が幅広く上昇し、全体を押し上げた。

都区部のCPIは速報値として全国CPIより約1カ月早く公表する。8月の伸び率は総合指数で7月の2.5%から0.4ポイント加速した。

消費増税があった2014年には3%を超す伸び率を記録した。それを除けば30年8カ月ぶりとなる大きな上昇となった。総務省は9月20日に全国ベースの8月の消費者物価指数を公表する。都区部と同様、高い伸びが見込まれる。

品目別にみると電気代が29.0%上昇し、ガス代も27.9%上がった。資源高の影響でエネルギー価格が消費者物価全体を大きく押し上げた。

食料関連では、すし（外食）が14.3%上昇したほか、まぐろ（21.0%上昇）やたまねぎ（41.9%上昇）も全体を押し上げた。食用油も43.8%上昇と大きく伸びた。食料価格は全体で4.8%上昇した。

もっとも、物価上昇はモノやエネルギーなど「財」の分野に偏っている。消費者物価指数を財とサービスで分類すると、財は6.0%上昇したが、サービスは0.5%上昇にとどまった。携帯電話の値下げの影響が残っているほか、米国のように賃金上昇に伴う形でのインフレの動きは弱い。

変動の大きい生鮮食品を除く総合指数（コアCPI）は前年同月比2.6%上昇した。第一生命経済研究所の新家義貴氏は「携帯電話の値下げの影響がなくなり、食品価格の値上げも相次ぐことで10月にコアCPIの伸び率は3%台になるだろう」と予測する。インフレ率は当面、伸び率が加速する可能性が高い。

都区部のCPIは速報値として全国CPIより約1カ月早く公表する。8月の伸び率は総合指数で7月の2.5%から0.4ポイント加速した。

消費増税があった2014年には3%を超す伸び率を記録した。それを除けば30年8カ月ぶりとなる大きな上昇となった。総務省は9月20日に全国ベースの8月の消費者物価指数を公表する。都区部と同様、高い伸びが見込まれる。

品目別にみると電気代が29.0%上昇し、ガス代も27.9%上がった。資源高の影響でエネルギー価格が消費者物価全体を大きく押し上げた。

食料関連では、すし（外食）が14.3%上昇したほか、まぐろ（21.0%上昇）やたまねぎ（41.9%上昇）も全体を押し上げた。食用油も43.8%上昇と大きく伸びた。食料価格は全体で4.8%上昇した。

もっとも、物価上昇はモノやエネルギーなど「財」の分野に偏っている。消費者物価指数を財とサービスで分類すると、財は6.0%上昇したが、サービスは0.5%上昇にとどまった。携帯電話の値下げの影響が残っているほか、米国のように賃金上昇に伴う形でのインフレの動きは弱い。

変動の大きい生鮮食品を除く総合指数（コアCPI）は前年同月比2.6%上昇した。第一生命経済研究所の新家義貴氏は「携帯電話の値下げの影響がなくなり、食品価格の値上げも相次ぐことで10月にコアCPIの伸び率は3%台になるだろう」と予測する。インフレ率は当面、伸び率が加速する可能性が高い。